

保護者のためのインターネットセーフティガイド
～インターネットの安全利用と家庭教育のヒント～
講師用補助資料

教材 URL : <http://www.child-safenet.jp/material/>

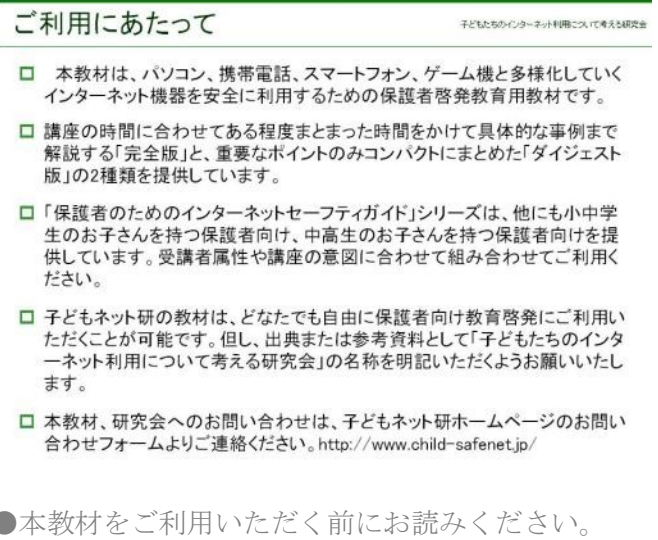
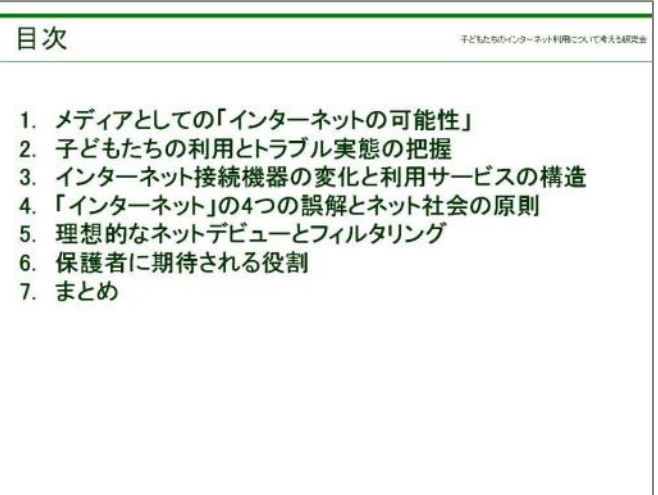
【インターネットセーフティガイドの特徴】

- ✓ 本教材は、保護者を対象とした 1 時間半～2 時間程度の入門的な講習での利用を想定して構成されています。
- ✓ 保護者のためのセーフティーガイドは、子どもに関わるすべての保護者を対象とした本教材（2012 年 3 月）の他に、「小中学生のお子さんを持つ保護者の方向け（前後編）」（2010 年）と、「中高生のお子さんを持つ保護者の方向け」（2009 年）を提供しています。それぞれ事例やサービスの概要などを織り交ぜながら、リスク回避の方法と家庭内での対策について解説しています。受講者の属性や事前の理解度に合致した講習レベルになるように、スライドを組み合わせアレンジしてご利用ください。
- ✓ 事件事故の例や個別サイトの特徴は、あくまでも保護者の注意をひき、理解を促進することを目的として紹介しています。事例そのものの紹介にとらわれすぎず、根本にあるリスク回避の基本的な考え方や、子どもとの対話の重要性についてもしっかりと伝えていただくことが講習実施の際の重要なポイントとなります。

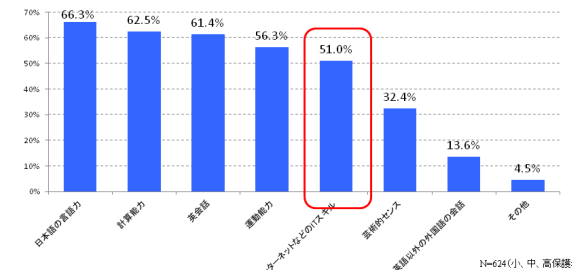
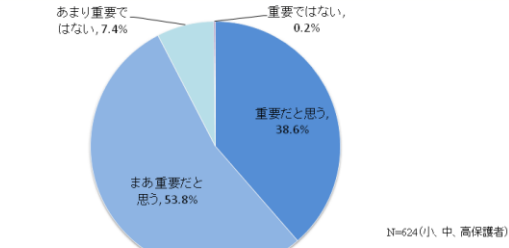
【本教材、補助資料の使い方】

- ✓ 教材は PDF 版と「Microsoft Office PowerPoint」で作成した ppsx 版（スライドショー形式）の 2 種類を提供しています。
用途や利用環境に合わせてご利用ください。
- ✓ 「画面イメージ」下部の「●」部分は、そのスライドのポイントです。

画面イメージ	教材のポイント
スライド.1 	

画面イメージ	教材のポイント
スライド.2 	本教材は、携帯電話やパソコンだけではなく、ゲーム機やスマートフォンなどどんどん多様化していくインターネット機器について保護者の方に知っていただくための教材です。 講座開催に充てられる時間や想定される受講者のレベルに応じて、フルバージョンの完全版と、コンパクトにまとめたダイジェスト版を使い分けてご利用ください。
スライド.3 	このモデル教材では、初めに受講者（保護者）の多くが漠然と感じている「インターネットの持つプラスの可能性」を具体的に例示することで、「子どもたちに適切なインターネット利用能力を身につけさせることの大切さ」への気づきを期待しています。その後、子どもたち特有の利用やトラブルの実態、その背景や構造について解説します。 後半では、対処のあり方を簡潔にまとめて示した上で、各家庭での具体的な取り組みのヒントを紹介し、受講後の行動の変化を促せるように構成しています。

画面イメージ	教材のポイント
スライド. 4 子どもたちのインターネット利用について考える研究会 メディアとしての「インターネットの可能性」  ●第一章では、新しいメディアであるインターネット利用の可能性について解説していきます。	
スライド. 5 1. メディアとしての「インターネットの可能性」 子どもたちのインターネット利用について考える研究会 こう思ったことはありませんか？ 「インターネットは危険」 「利用時には注意しましょう」 「フィルタリングは必要です」 「そんなに危ないのに使わせて平気なの？」 「使わせない方がいいんじゃない？」 「危ないことは解ったけど……どうすればいいの」 「うちの子は大丈夫！」「制限ばかりではダメ！」 わずか10数年で社会基盤の一部となったインターネット 子どもに「どう使わせるべき」か、保護者の反応はさまざま ●「危険性」ばかり強調されるインターネットが、今後子どもたちに不可欠なツールであることを冒頭で説明していきます。	「インターネット活用の可能性」について触れ、なぜ子どもたちに安全な利用方法を身につけさせる必要があるのか、保護者への動機づけを行います。 インターネットやパソコン、携帯電話などにあまり詳しくない保護者の中には、ニュースやケータイ安全教室などでインターネットの危険性について聞いたことで、不安が膨らみ、機器の利用を全面的に禁ずるなど、結果的に問題の先送りをしてしまう方も少なくないようです。 この章ではインターネットの可能性や、インターネットが子どもたちの未来に不可欠であるツールであることを統計データや現実的な活用例を示すことで再確認していきます。

画面イメージ	教材のポイント
スライド. 6 1. メディアとしての「インターネットの可能性」 子どもたちのインターネット利用について考える研究会 子どもに身につけさせたい能力・スキル(保護者の期待) Q. あなたが、あなたのお子さまに身につけてほしいと思う教養やスキルは何ですか？  インターネットの活用能力は、「読み書きそろばん」と並ぶ基礎的な社会スキルの一つとなりつつあります N=624(小、中、高保護者) JAPETMS共同調査「学校でのICT活用についての実態調査」(2012年1月発表)より ●日本教育工学振興会（JAPET）と日本マイクロソフトによる共同調査「学校での ICT 活用についての実態調査」結果からの引用データです。 調査詳細については、日本教育工学振興会ホームページをご覧ください。http://www.japet.or.jp/	JAPET と日本マイクロソフトによる「学校での ICT 活用についての実態調査」（2012 年）によると、子どもに身につけて欲しいと思っている教養やスキルとして、51%の保護者が「パソコンやインターネットなどの IT スキル」と回答しています。 この調査結果から、英会話などと並び、IT スキルは今後必要不可欠な社会的能力の一部になると保護者が考えていることが読み取れます。
スライド. 7 1. メディアとしての「インターネットの可能性」 子どもたちのインターネット利用について考える研究会 ICT活用能力の重要性(保護者の意識) Qインターネットやパソコンが日常的なツールとして、生活のあらゆる場面で使われるようになっていきます。あなたは、あなたのお子さまが、このような情報化社会に適応するための能力を身につけることがどのくらい重要だと考えますか。  子どもたちが「情報化社会に適応する能力」の習得を重要と考える保護者がほとんど N=624(小、中、高保護者) JAPETMS共同調査「学校でのICT活用についての実態調査」(2012年1月発表)より ●日本教育工学振興会（JAPET）と日本マイクロソフトによる共同調査「学校での ICT 活用についての実態調査」結果からの引用データです。 調査詳細については、日本教育工学振興会ホームページをご覧ください。 http://www.japet.or.jp/	ICT 活用能力の重要性に関する保護者の意識を調査した結果です。90%以上の保護者が、子どもたちに情報化社会に適応するためには、「ICT 活用能力は重要」と認識していると回答しています。 急速に発達したインターネットを安全に利用、適切に活用する力は、次の時代を生きるわが子にとって重要なものとする保護者が多いことが確認できます。 ※ICT…Information and Communication Technology 情報・通信に関する技術のこと

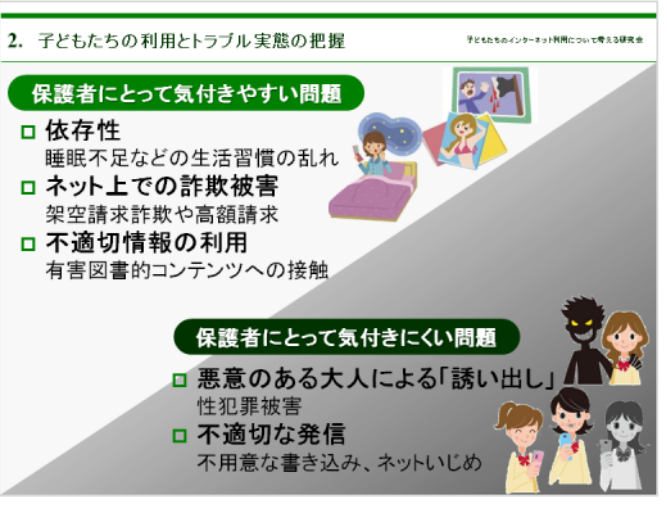
画面イメージ	教材のポイント
スライド 8 1. メディアとしての「インターネットの可能性」 子どもたちのインターネット利用について考える研究会 社会インフラとしてのインターネット 一流の教育に触れるチャンス 国内外著名大学が、授業内容を動画共有サイト上で公開し、誰でも自由に学ぶことが可能に 就職活動の情報収集の幅を広げる 国内大手企業の一部が、SNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)上で、採用情報発信を開始 災害時の情報共有 東日本大震災発生時、被災・避難・支援のための情報収集・共有ツールとして各種SNSが活躍 ●社会インフラとして必要不可欠となったインターネットの活用例を紹介します。	娯楽要素や生活情報の面での利便性が強調されがちなインターネットですが、ここでは子どもたちの将来や安全につながる現実的な活用事例を紹介していきます。 一つ目は、ハーバード大や東京大学など国内外の有名大学による、講義の無料動画配信事例です。大学自らが、動画共有サイト上などに、講義の様子を撮影した動画をアップロードしています。意欲があれば、こうした学びの機会が広がるのが、インターネットの魅力の一つです。 二つ目は、就職活動での SNS 活用事例です。国内大手企業でも、SNS サイト上で就職活動を行う学生向けに情報を発信するケースが増えています。学生は SNS サイトを利用することで、企業担当者への質問、相談など、従来はなかなか難しかった直接コンタクトを取る貴重なチャンスを得られるようになりました。インターネットで情報収集し、活用できるという事が就職活動をする上で必須能力となってきました。 三つ目は、東日本大震災の後で見られた、SNS などを利用した災害時の情報共有事例です。通信の混雑によって携帯電話の通話やメールが不通となった時も、一部のソーシャルメディア上では、被災・避難、物資などに関する貴重な情報がユーザー間で共有できました。これをきっかけに、SNS などのサービスが新たな社会インフラとして認知されました。 ※SNS…ソーシャル・ネットワーキング・サービス (Social Networking Service)

画面イメージ	教材のポイント
スライド 9 子どもたちの利用とトラブル実態の把握 ●第二章では、子どもたちの利用スタイルやトラブル傾向を紹介していきます。 スライド 10 2. 子どもたちの利用とトラブル実態の把握 子どもたちのインターネット利用について考える研究会 子どもたちの欲求とサービスの特徴 子どもたちの欲求 サービスの特徴 暇つぶしをしたい ゲーム性が高い 友だちの多さを自慢したい 未知の友だちと交流できる 異性への興味関心が高い 異性と交流できる 背伸びをして度胸を示したい 危険な香りがする 自由になるお金が欲しい 無料である、仮想通貨を稼げる ●子どもたちの欲求と、子どもたちに人気のサービスの特徴を対比させて紹介します。	子どもたちのインターネット利用の中身は、大人のそれとは大きく異なっているため、初めにその差を理解しておくことが大切です。 また、身近で起きていてもトラブルの中身が見えにくいのがインターネットの特徴です。この章では比較的数量が多く、また深刻なトラブルについて、概要を紹介しています。 ここでは、「お金がほしい」「暇つぶししたい」「異性と知り合いたい」など、子どもたちの欲求傾向と、人気のあるインターネットサービス（サイト）が備える特徴とを対比させることで、子どもたちがインターネットサービスに熱中する背景について解説します。 自分を「オトナ」に見せたい、背伸びしたい気持ちが、時には危険なサイトや出会い系サイトを興味本位で利用させている一つの理由かもしれません。

画面イメージ	教材のポイント
スライド. 11  ●男女別に陥りやすいトラブル傾向と、その被害について解説します。	ここでは男女別に特に目立つトラブルの事例を示し、同世代の子どもたちでも、性別によってトラブルの傾向が異なることを伝えていきます。 男子の場合は、自分を強く見せたいが故の自慢話やネット上の過激な発言が原因の暴力事件、女子の場合は、大人による誘引（性犯罪被害）や援助交際など、生命身体にかかわる被害が目立ちます。 女子児童・生徒の方が、心と身体に傷を残すトラブルによりつながりやすい点について注意が必要です。 また性犯罪の被害は、ごく少数ですが男子児童・生徒にも見られます。
スライド. 12  ●このスライドでは、アニメーションを使って、掲示板へのいたずら心からの書き込みが原因で検挙に至った事例を紹介しています。	ここで例示しているのは、いたずら心から掲示板サイト上へ電車爆破予告を書き込み、その結果、駅や電車の運行に混乱を招き、威力業務妨害の容疑で警察に検挙されたケースです。 手元の携帯電話などから、気軽に書き込みが出来ることから、類似の事件は実際にしばしば発生しています。

画面イメージ	教材のポイント
スライド. 13  ●このスライドでは、アニメーションを使ってブログなどのコミュニケーションサービス上でのトラブル事例を紹介しています。	子どもたちの間では日記やコメントの内容が原因でのトラブルが数多く発生しています。ここで例示しているのは、ブログ上に書いた内容が原因で、他校の男子生徒同士が喧嘩となったケースです。 ブログやメールなど、デジタルなコミュニケーションでは、対面であれば表情などで読みとれるはずの話し手の感情が伝わらないため、文章を読んだ時の相手の状況や文章の稚拙さによりトラブルが発生しやすいことを、使う子どもたちも使わせる保護者もあらかじめ認識しておく必要があります。
スライド. 14  ●このスライドでは、アニメーションを使ってワンクリック詐欺に代表される架空請求詐欺などのトラブル事例を紹介しています。	この手の詐欺は年々仕掛けが巧妙になり、利用している機器毎に割り振られているインターネット上の住所である IP アドレスやプロバイダー情報などを提示し、さも個人を特定したかのように見せかけたり、パソコンの画面に卑猥な画像や請求情報などが表示されたままになり、お金を振り込まないと解除できないと脅すケースが増えています。IP アドレスやプロバイダー情報などは、利用者がインターネットにアクセスした場合にサイト運営者が取得できるごく一般的な開示情報のため、この情報だけで簡単に個人が特定することは非常に困難です。請求画面や画像などが表示されるケースも、パソコン内に不正にインストールされたファイルやプログラムを削除することで消すことが可能です。誰にも相談できず、登録を解除してもらおうと子ども自身が悪質業者に連絡をしてしまい、個人情報を開き出されたり、送金してしまう事例が増えています。 ▼参考情報 ・国民生活センター http://www.kokusen.go.jp/news/click.html ・IPA（独立行政法人情報処理推進機構） http://www.ipa.go.jp/security/topics/alert20080909.html ・東京都消費生活総合センター http://www.anzen.metro.tokyo.jp/net/

画面イメージ	教材のポイント
スライド. 15  2. 子どもたちの利用とトラブル実態の把握 生命・身体にかかわる被害 Name 山田 Area 東京 Mail ☆10代の学生さんモデル大募集です☆ 高校生にも人気の雑誌「A」の仕事もしている(^_^)/フリーのカメラマンです。都内でモデルやってみたい現役モデルさん・初心者・未経験者の方募集します！時間は1〜2時間程度、制服やコスプレなど服を着ての簡単な撮影です。^^ 撮影はすべて着衣、画像は個人使用なので流出の心配はありません♪バイト代は最低1万円〜 女子児童・生徒があこがれるモデルや、バイト代をエサに呼び出し顔写真から始まり、裸の写真やビデオを強制的に撮影。 ●このスライドでは、女子児童・生徒のあこがれである「モデル募集」に潜む危険について解説しています。	大人から見ると、一目で「怪しい」と思うモデル募集掲示板ですが、巧みな誘い文句にのせられて、女子中高生が被害に遭う例が後を絶ちません。掲示板には、中高生に人気のファッション雑誌名や、着衣であること（ヌードでないこと）、個人使用で画像流出の心配がないことなど、安心させるために書かれた内容が記載されています。（教材内で例示している文面は、実際にインターネット上に存在したあるモデル掲示板に掲載されているものを参考にしています） 募集の時点では写真の流出はないと安心させていますが、撮影した顔写真や聞き出した個人情報などをネタに、さらに露出度の高い写真や裸の写真、ビデオの撮影を強要されたという被害事例が多く報告されています。またこうした偽のモデル募集に限らず、撮影された画像や動画がいったんネット上に流出した場合、すべてを削除、回収することは現実には不可能であり、その意味では被害が一生続いてしまうという怖さは、改めて強調しておく必要があるでしょう。
スライド. 16  2. 子どもたちの利用とトラブル実態の把握 コンサートチケットやファッショングッズに関する売買トラブル ファンの掲示板 ここは情報交換の場です☆ ルールを守って使いましょう。 NAME TITLE COMMENT 投稿する ■チケット売ります！2枚で10万円とってほしいです☆ ■FC底を売ります。もう売ってません！2枚で15万円 チケットまだかな～ 未成年者が「お金欲しさ」からチケット詐欺を行い、逮捕されたケースも。 ●このスライドでは、人気タレントのコンサートチケットの売買詐欺事例を例に解説していきます。	人気タレントのファンが集まる掲示板では、情報交換やチケットの交換などが、実際に活発に行われています。ここで紹介するのは、ファン掲示板を利用したコンサートチケットの売買詐欺事例です。ここではインターネット上での物品や情報の取引を無防備に行った場合には、実生活以上の不確実性が存在することを保護者にも知ってもらいましょう。お小遣いほしさに、チケットを譲る書き込みを掲示板に行い、代金を先払いで振り込ませています。もちろん実際にチケットは持っていないため、振り込んだファンの手元にはチケットが届くことはありません。実際に起こった事件では、詐欺を行った高校生はチケットを1枚も持っていないにもかかわらず数名のファンから、数万円の代金をだまし取っていました。

画面イメージ	教材のポイント
スライド. 17  2. 子どもたちの利用とトラブル実態の把握 ネット上でのコミュニケーショントラブル A子にもメールおくれたんだけど返事おそいんだよ！ A子にメールおくるのやめよムシムシ メールの内容が原因ではなく、返信の遅延が原因でいじめがはじまることも。 ●ここでは携帯メールの遅延が、いじめにつながるケースを紹介しています。	女子児童・生徒の場合には、特にコミュニケーション目的でのインターネット利用が盛んです。地域や年齢によって差はありますが、中高生の間では、数分以内など、きわめて短時間でのメール返信が暗黙のルールとなっていて「返信の遅延＝友人関係の希薄さ」をあらわす指標とされることもあるようです。 こうした「短時間での返信」を強いられる緊張感が、やがて依存的な精神状態につながり、食事中や就寝時にも携帯電話を手放せないお子さんが増えています。就寝時には自室に持ち込ませず、友人にもそのことを知らせるなど、利用ルールについて親子で話しあってみましょう。
スライド. 18  2. 子どもたちの利用とトラブル実態の把握 保護者にとって気付きやすい問題 □ 依存性 睡眠不足などの生活習慣の乱れ □ ネット上での詐欺被害 架空請求詐欺や高額請求 □ 不適切情報の利用 有害図書のコンテンツへの接触 保護者にとって気付きにくい問題 □ 悪意のある大人による「誘い出し」 性犯罪被害 □ 不適切な発信 不用意な書き込み、ネットいじめ ●保護者にとって気付きやすい問題と、問題が大きくなるまで見えてこない気付きにくいものがあることを解説します。	子どもたちがインターネットや携帯電話などを利用する際に、保護者にとって気付きにくい問題があることを解説していきます。 比較的気付きやすい問題としては、夜遅くまでの利用による寝不足や体調不良などを引き起こす依存性、架空請求に代表される詐欺被害、アダルト・残虐画像など「有害図書」的コンテンツとの接触があげられます。 保護者がなかなか気付きにくく、気付いた時には問題が大きくなっている場合が多いものとして、コミュニケーションサイトで知り合った、悪意のある大人による「誘い出し」がまずあげられます。また、掲示板やブログ、SNS上などへの発信がきっかけとなるトラブルやネットいじめも、保護者にとって気付きにくい問題の一つです。 コミュニケーションスキルが未成熟な子どもたちにとって、大人でも難易度の高い「顔の见えない」オンラインコミュニケーションはトラブルの原因となる事が多いのです。

画面イメージ	教材のポイント
スライド. 19 2. 子どもたちの利用とトラブル実態の把握 子どもたちの基本的な利用スタイル 友だちとの連絡手段は通話よりメール インターネットやメールは携帯電話から 隙間時間にブログやSNSを閲覧、更新 子どもたちの使い方は大人とは正反対 ●大人と子どもの利用スタイルの違いについて解説します。	子どもたちの利用は、大人と大きく異なり「携帯電話利用＝通話」ではありません。友だちとの連絡手段は、通話ではなく携帯メールが主です。また、パーソナル性が高い機器を好む傾向が高く、メールの利用自体も PC からではなく「自分専用」として所持していることが多い携帯電話からが主。と言うのも、大人と大きく異なる点です。 友だちと常につながっていたい欲求が高く、1 日の携帯メールの送受信数や、送受信間隔の短さは大人を大きく上回ります。隙間時間を利用して、携帯電話からブログや SNS サービスを閲覧、更新するケースが多いのも、友だちとのコミュニケーションツールとして、携帯電話やコミュニケーションサービスの利用が定着しているためと言えます。
スライド. 20 インターネット接続機器の変化と利用サービスの構造 BBS SNS BLOG ●第三章では、子どもたちのインターネット接続機器の変化と、子どもたちに人気のサービスの構造や特徴について解説していきます。	子どもたちが楽しんでいるサイトの多くは、名前こそ聞いたことがあっても、その中身は大人にはなじみのないものがほとんどです。 この章ではそうした人気サイトの構造や、インターネット利用に使われる機器の多様化について解説します。

画面イメージ	教材のポイント
スライド. 21 3. 利用サービスの構造とインターネット接続機器の変化 コミュニケーションサイト(双方向利用型サイト)の構造 ゲーム アバター サークル コミュニティ ミニメール 日記 掲示板 自己紹介 SNS 交流サイト (SNS) プロフ (プロフィールサイト) ●ここからは、子どもたちに人気のサービスの特徴や構造について解説していきます。	「ゲームサイト」と呼ばれる事が多い交流サイト（SNS）ですが、そのサービスの中身はゲームだけでなく、さまざまな要素の組み合わせで成り立っています。 ・自己紹介機能…これはインターネット上に自己紹介ページを作ることができる機能です。一昔前の紙のプロフィールカードのように自分の趣味や特技などをあらかじめ用意された質問にひとつずつ答える形で入力していきます。 ・掲示板機能…これは、自分のサイトやページを見に来た人と交流するためのものです。この機能だけを独立させたものが、「掲示板サービス」です。いわゆる「学校裏サイト」の大半が掲示板サービス上に開設させています。 ・日記…インターネット上に開設する事ができる日記帳です。この機能だけを取り出したブログサイトや、リアルタイムに日常の出来事を短文で書きこむミニブログも人気です。 ・ミニメール…自分の携帯電話やパソコンのメールアドレスを相手に伝えることなく、サービス内専用メール（私書箱）で、サイト登録会員同士で直接コンタクトを取ることが可能です。 ・サークル、コミュニティ…同じ趣味や出身地など、あるテーマのもとにユーザー同士が交流するスペースです。（テーマ別の掲示板の集合体） ・ゲーム、アバター…ゲーム内の仮想通貨やポイントで購入して、楽しむことができます。アバターはサービス内の自分の分身（キャラクター）で、きせかえなどを楽しめます。 このうち、自己紹介、掲示板、日記機能を組み合わせたサービスが、いわゆるプロフ（プロフィールサイト）です。上記のすべての機能を組み合わせたものがしばしば「ゲームサイト」と呼ばれる交流サイト（SNS）となります。 ※可能であれば、実物投影機やウェブカメラなどを利用し、携帯電話画面を投影し、実サービスを紹介するとより理解が深まります。※受講者の携帯電話を利用する場合は、パケット定額制プランに加入していない場合、通信料金が高額になる場合もある事を忘れずに伝えておきましょう。

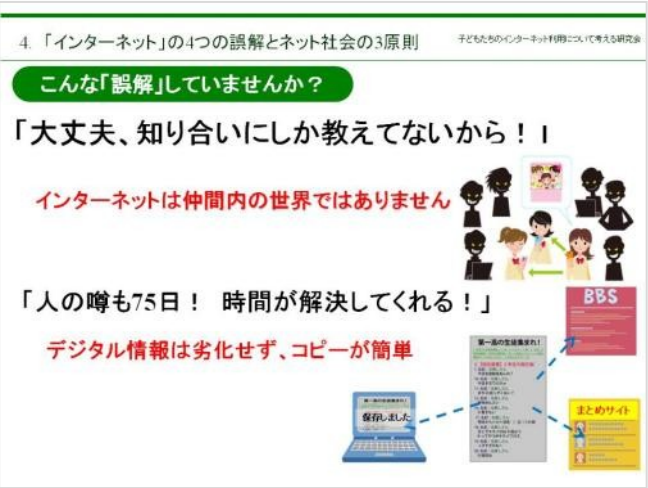
画面イメージ	教材のポイント
スライド. 22 3. 利用サービスの構造とインターネット接続機器の変化 子どもたちのインターネット利用について考える研究会 プロフィールサイト 概要 インターネット上の自己紹介ページ 18歳未満の子どもの半数が利用経験有との調査結果あり 見た人がメッセージを残す、掲示板機能や、人気を競うランキングサイトも 問題点 写真を含めた個人情報を自らさす事例が多 利用者間交流が旺盛で、中には事件に発展した例も わいせつな雑誌等に転用されるなどの被害も ●スライド 21 で解説した機能のなかから、子どもたちの利用率が高いサービスの問題点を解説していきます。	プロフ（プロフィールサイト）は、ある調査によると 18 歳未満の子どもの半数が利用経験有と回答したほど、子どもたちにとって「名刺代わり」のごく身近なサービスです。プロフィールページにはアバターだけではなく、携帯電話やプリクラなどで撮影した、自分の写真を張り付けることも可能です。 プロフィールサイトでは、写真を含めた個人情報を自分自身でインターネット上に過度にさらしてしまう事例がよくみられます。この原因として、自分のプロフィールページは、自分が URL を直接教えた相手だけが見られるものと勘違いしているケースも少なくないようです。プロフに付属の掲示板機能を利用した利用者間の交流も活発で、この機能を利用して、誘い出しなどの事件に巻き込まれることもあります。プロフィールに掲載した写真が、勝手に出会い系サイトやわいせつな雑誌等に転用される被害も発生しています。
スライド. 23 3. 利用サービスの構造とインターネット接続機器の変化 子どもたちのインターネット利用について考える研究会 コミュニケーションサイト 概要 18歳未満の子どもの半数以上が登録・利用経験あり 無料ゲームやアバターの着せ替えが楽しめる 利用者間でやりとりができる 問題点 過剰にはまりやすい(中毒性) 年齢が詐称できる 実際に殺人事件が発生した例も ●スライド 21 で解説した機能のなかから、子どもたちの利用率が高いサービスの問題点を解説していきます。	プロフィールサイトと並んで人気なのが、コミュニケーションサイト（交流サイト）です。ゲームやアバター機能が人気で、先ほどスライド 21 で構造を解説する際に触れたように、サイト内専用メールを使い、利用者間でダイレクトなコンタクトを取ることが可能です。 無料の会員登録が必要なサービスがほとんどですが、登録する際の情報を詐称することが可能なため、性別や年齢等を偽り、悪意のある大人が子どもたちに近づくトラブルも多く、実際にこのようなサービスでの出会いをきっかけに性犯罪被害に遭うだけでなく、殺人事件にまで発展したケースもあります。 また子どもたちが夢中になる楽しい機能、しくみにより過剰に「はまる」ケースもあるようです。（中毒性による生活の乱れや、アバターやゲームアイテム購入による高額請求）

画面イメージ	教材のポイント
スライド. 24 3. インターネット接続機器の変化と利用サービスの構造 子どもたちのインターネット利用について考える研究会 Q. 子どもだけで使っている機器の中で、いちばん最初に子ども専用になったもの(機器)はどれですか(単一回答)(n=1750) ニンテンドーDS (DS lite/Dsi含む), 63.90% PS3 (プレイステーション3), 0.90% PSP (プレイステーション・ポータブル), 1.50% Wii, 4.50% パソコン, 6.60% 携帯電話, 11.00% その他ゲーム機, 11.50% 子どもに買い与える「初めてのインターネット接続機器」はゲーム機 (9%) ●ネットスター株式会社による「第 11 回家庭でのインターネット利用実態調査」（2010 年 3 月実施）からの引用データです。 調査詳細については、ネットスター株式会社のホームページをご覧ください。 http://www.netstar-inc.com/	この調査によると、各種ポータブルゲーム機が子どもにとって「初めての自分専用機器」だと選択した保護者が全体の 7 割を上回ります。 ところが最近のゲーム機は、通信型ゲームに対応するためインターネット接続機能を持っています。またそのほとんどがブラウザー機能を持ち、インターネット上の一般サイトにもアクセスする事が可能です。 ところが保護者は、ゲーム機がインターネット接続できる事を知らないまま、子どもに利用させているケースがまだまだ多く見られます。 ニンテンドーDS シリーズやソニーPSP シリーズなど、人気ゲーム機は「インターネット接続機器」であることも触れておくようにしましょう。
スライド. 25 3. インターネット接続機器の変化と利用サービスの構造 子どもたちのインターネット利用について考える研究会 「イマドキ」の子どもたちのインターネット機器 携帯電話・スマートフォン 携帯音楽プレーヤー 中学生～高校生 小学生～ 就学前～ パソコン(学校や家庭) 携帯電話 携帯型ゲーム機 パソコン(家族と一緒に) 携帯型ゲーム機 買い与える際にはネット接続を想定していなかった「隠れインターネット機器」の増加で、子ども自身の専用機器による、ネットデビュー時期が早まっています ●ここでは、ゲーム機及び音楽プレーヤーなどの想定外の「子ども専用インターネット接続機器」について解説します。	前のスライドでは、ゲーム機について触れましたが、ここでは学齢別にどんな「隠れインターネット機器」を所有しているのか紹介しています。 子どもたちが自分専用 to 所有している接続機器としては、ゲーム機以外にも、携帯音楽プレーヤー（代表的なものとして iPod Touch が挙げられます）や、子どもたちの利用が増えつつあるスマートフォン（iPhone や Android 端末）があります。特に携帯音楽プレーヤーは、通話機能こそないものの、スマートフォン並みにインターネット接続ができる機種も増え、無線 LAN（Wi-Fi）によるインターネット接続環境があれば、比較的簡単・快適にインターネットを利用することが可能です。 このように多岐に渡るインターネット接続機器の登場により、子どもたちの「専用機器」によるネットデビューの時期は、実質的に年々早まる傾向にあります。

画面イメージ	教材のポイント
スライド. 26 ●ここでは、街中に急増している無料のインターネット接続環境について解説します。	子どもたちのインターネット接続機器が多岐に渡る事とともに、街中に急増している無料のインターネット接続環境についても触れておく必要があります。 これまでも、家庭や事業所内に設置されている無線 LAN 環境のセキュリティ設定が甘いため、付近で不特定多数の人がアクセスできる状況になっている事例は、セキュリティ対策の話として話題になっていましたが、そのネットワークを子どもたちが探し出し、所有しているゲーム機などのネット接続可能機器を持参し、インターネットを利用しているという話が聞かれるようになっていきます。 また最近ではファミリーレストランやファストフード、コンビニ、カフェなどで、無料の無線 LAN (Wi-Fi) インターネット接続サービスが急増しています。 保護者の方には、お子さんに買い与えている機器がインターネットに接続可能なのか、子どもにその機器からの接続を許すのか家庭で検討いただき、利用制限やフィルタリングなどの対策の必要性をしっかりと伝えておきましょう。
スライド. 27 ●スマートフォンと従来の携帯電話の違いと、今後の課題について触れています。このスライド 27 と 28 については、技術の進化とスマートフォンの急速な普及に伴い、日々状況が変化しています。講習を行う際に独自にアレンジして補足解説することをおすすめします。	携帯電話の多くが、従来型（フィーチャーホン・ガラケー）からスマートフォンへと移行していく中で、気をつけなければいけない点があります。 従来型の携帯電話では、i モードや EZweb、Yahoo!ケータイのように携帯キャリアの通信網を利用した、各携帯会社独自仕様のモバイル専用サイトの利用が主でした。ところがスマートフォンの場合は、携帯キャリアの通信網以外にも、Wi-Fi を経由したインターネット接続が可能で、スマートフォン用に使いやすいように最適化された専用ページはもちろん、パソコン用に作られたほとんどのサイトへのアクセスも可能です。 スマートフォンをお子さんに買い与える場合には、従来型携帯電話の延長線上にある高機能版と捉えるより、通話機能が付いたパーソナルサイズのパソコンを買い与えると捉えるほうが、利用できる機能やリスクについての誤解が少ないかもしれません。

画面イメージ	教材のポイント
スライド. 28 ●スマートフォンと従来の携帯電話の違いと、今後の課題について触れています。このスライド 27 と 28 については、技術の進化とスマートフォンの急速な普及に伴い、日々状況が変化しています。講習を行う際に独自にアレンジして補足解説することをおすすめします。	パソコンや従来型の携帯電話では、どんなジャンルのサイトへのアクセスを許可・制限するのか、フィルタリングサービスを利用することで保護者が管理できます。 ところがスマートフォンや携帯音楽プレーヤーの場合には、フィルタリング設定の前にアプリの管理が必要になります。 スマートフォンでは、アプリのダウンロード、インストールによる機能の拡張が、パソコン以上に簡単です。たとえば、フィルタリングアプリを回避できるブラウザアプリを追加することも出来てしまいます。また、ブラウザを使わず、直接インターネット上のサイト（サービス）に接続可能なアプリも少なくありません。 したがって、フィルタリング以前に、どんなアプリが入っているのかを把握し、どのアプリは許可し、どのアプリは子どもには使わせたくないのかを管理するための、専用アプリや支援機能を適切に利用・設定しておかなければ、不適切なサイトへのアクセス制限を行うことは出来ないのです。 なお、スマートフォンは OS のバージョンアップにより購入後も短期間での進化を続けています。変化する利用環境にどう対応していくのかも、今後の大きな課題の一つと言えるでしょう。 ※講習を行う場合は、保護者にその時点での最新の情報を伝えられるよう、あらかじめ情報収集を行いましょう。

画面イメージ	教材のポイント
スライド. 29  ●第四章では、インターネットに対するありがちな誤解と、インターネット社会の基本原則について解説します。	インターネットは特別な世界ではありません。大人が持つ社会常識を適切に働かせることで、安全な利用が可能な、社会の一部です。しかし、インターネットならではの特性も存在しており、頭の片隅に置いておく必要があります。 この章では、子どもたちがつい陥りがちな誤解と、とるべき対処を重要なポイントに限って簡潔にまとめて紹介します。

画面イメージ	教材のポイント
スライド. 30  ●インターネットに対する大人でもありがちな誤解を解説していきます。	インターネットを利用する上で、誤解しがちな4つのポイントを解説していきます。 ・「大丈夫、知り合いにしか教えてないから」…プロフィールサイトの解説でも触れた通り、低学齢の子どもたちは、URL を教えた相手しか自分の作ったサイトやページを見ないものと誤解しがちです。実際には検索エンジンや、別のサイトやページからのリンクなどを経由して、全く知らない相手が自分のページに到達する可能性があるのです。インターネット上に写真やテキストを公開する際には、常に全世界に向けて情報発信をしている自覚が必要です。 ・「人の噂も75日！ 時間が解決してくれる！」…デジタル情報は劣化することがない上に、コピーが簡単に行えることが特徴です。インターネット上に公開した情報は、同様にコピーを作成したり、「ウェブ魚拓」と呼ばれるようなアーカイブサービスを利用したりすることにより、簡単に複製され、元のページが消去された後もインターネット上に残り続けます。最近では、掲示板の書き込みなどを複写し、インターネット上に散らばっている情報を集めてまとめる「まとめサイト」も増えています。 このように、インターネット上に一度公開した情報を、すべて消し去ったり回収したりすることは原理的に不可能で、自分では消したつもりの情報が、数十年後に再びネット上に公開される可能性はゼロとは言えません。
スライド. 31 	ここでは「従来型コミュニケーション媒体」の例として、かつて同級生など友だち同士で交換されていた、紙のプロフィールカードやサイン帳を例に、インターネットと実生活の差を確認していきます。 （紙を用いた）従来型のコミュニケーションは、あくまでも知っている友だち同士間で、手渡しで行われていました。自分が書いたものが外部に広まるスピードは遅く、内容もコピーするたびに劣化していきます。従ってその到達範囲は狭く、実質的には保管可能な期限も限られています。

画面イメージ	教材のポイント
スライド. 32 4. 「インターネット」の4つの誤解とネット社会の3原則 子どもたちのインターネット利用について考える研究会 現在は..... インターネット上のプロフィールサイト  「自覚のないまま世界中に公開」	一方、インターネット上でのプロフィールサイトは、手軽に見栄えのいいプロフィールページを作成でき、メールなどで友だちに簡単にそのページの URL を伝えることができる点が魅力です。携帯電話さえ持っていれば、紙での持ち運びも不要です。 このアニメーションスライドでは、自分の画像を携帯電話でサイトにアップロードしている様子を表していますパスワードなどによる閲覧制限を設けていない場合、インターネットにアクセス可能な人であれば、誰でもそのプロフィールページを見ることが可能です。 ここでは、プロフィールサイト（プロフ）を利用することが問題なのではなく、「インターネットの世界＝全世界中に公開」されるものだということを認識した上で利用できていないことが一番の問題点である事を必ず伝えましょう。インターネットでのデジタルコミュニケーションは紙を使ったものとは大きく異なることを意識して、たとえ知らない人に広まっても差し支えない内容に限った発信とすべきことを、保護者も理解することが必要です。
スライド. 33 4. 「インターネット」の4つの誤解とネット社会の3原則 子どもたちのインターネット利用について考える研究会  インターネット上で公開した情報を完全に消すことは不可能です 他のサイトや雑誌に転載	デジタルデータとして公開した内容は、その波及速度が非常に速く、コピーしても劣化しないことから、保管期限は半永久的です。 このスライドでは、公開されたプロフィールサイトに掲載されていた画像が、他のサイトや雑誌などに、本人の意図と異なる形で転載されるトラブルについて紹介しています。

画面イメージ	教材のポイント
スライド. 34 4. 「インターネット」の4つの誤解とネット社会の3原則 子どもたちのインターネット利用について考える研究会 こんな「誤解」していませんか？ 「ネット上の出来事は、すべて仮想世界の出来事」 インターネットは法の支配も及ぶ現実社会の一部です  「書いたのは自分だってバレないよ！」 インターネットは現実世界よりも追跡性が高いのです  威力業務妨害罪	スライド 30 に引き続き、インターネットを利用する上で誤解しがちなポイントを解説していきます。 ・「ネット上の出来事は、すべて仮想世界の出来事」…インターネット上で起こった出来事は、現実とは一線を画した、バーチャルな世界の出来事と誤解することもあるかもしれませんが、しかしインターネットの世界も法律が適用される現実社会の一部です。いたずらのつもりなど、不適切な書き込みがもとで、青少年が警察に検挙された事例や、退学などの処分を受ける事例が数多く発生しています。 ・「書いたのは自分だってバレないよ！」…インターネットは顔が見えない匿名世界だと思っている人も少なくないと思いますが、実はインターネットの世界は実社会よりも追跡性の高い世界なのです。 携帯電話などからインターネットにアクセスすると、その通信を中継するさまざまな場所に詳細な記録（ログ）が一定期間保存されています。警察は捜査の際にこれらを順にたどることにより、使われた機器やその所在地を特定することが可能です。インターネットを利用した事件があった際に、問題の記事を投稿した本人を突き止めることは、一般の利用者が想像するより、はるかに容易なことなのです。但し、この追跡に必要な詳細なログは一般に開示されている情報ではなく、警察等の限られた公的機関が正式な手続きを踏んだ上で入手できる特別な情報です。

画面イメージ	教材のポイント
スライド. 35 4. 「インターネット」の4つの誤解とネット社会の3原則 子どもたちのインターネット利用について考える研究会 インターネット社会の「3原則」 ❑ 「“発信の自由”が最大限に尊重されます」 「法に触れない限りは自由」という考え方で発達したメディアです ❑ 「見る側が情報の真偽を判断しなければいけません」 デマ情報が流通しやすいだけでなく、それぞれの立場から一方的な意見が述べられているケースも ❑ 「利用者側が自分の身を守らなければいけません」 テレビや雑誌などの従来のメディアと比べ、見たくない情報や不適切なものから身を守るための備えがより必要です 	ここからは、インターネットのこれまでの発達を支え、その特性を決定づける 3 原則について解説していきます。 ・「“発信の自由” が最大限に尊重されます」 雑誌・書籍やテレビ、映画など従来メディアの場合、制作、流通などの過程での内容の審査（レイティング）、販売スペースや放送時間帯、対象年齢の制限などが存在しています。もちろんインターネットの場合でも、法に触れるものは削除・処罰等の処置が行われますが、情報発信に必要なコストが従来メディアと比べて圧倒的に低いため、誰でも情報発信が可能で、その内容も発信者の自覚に任されています。 ・「見る側が情報の真偽を判断しなければいけません」 インターネットは誰もが自由に発信できる世界です。貴重な文献や最新のニュースなどを手に入れられる半面、嘘の情報や一方的な意見、偏った考えなども数多く流通しています。この膨大な情報を見る側が取捨選択し、真偽とともに、自分に必要な情報か見極めていかなければいけません。 ・「利用者側が自分の身を守らなければいけません」 既述の 2 点からもわかる通り、さまざまな情報であふれるインターネットの世界では、利用者側が見たくない情報や不適切な情報から、自ら身を守る必要があります。特に発達途上の子どもたちにインターネットを利用させる場合には、保護者がその役割を担わなければいけない時期が存在します。本教材の後半で解説していきますが、保護者の働きかけを支援するフィルタリングなどの環境整備とともに、情報を見極め、活用できるように子どもの能力を育てていかなければいけません。

画面イメージ	教材のポイント
スライド. 36 4. 「インターネット」の4つの誤解とネット社会の3原則 子どもたちのインターネット利用について考える研究会 子どもに伝えておきたい対策 ❑ プライバシー情報の書き込みを控えましょう ・子どもたちにありがちな「四つの誤解」を解いておきましょう ・会員しか利用できないことで、気が緩む場合も ❑ サイト上でのコミュニケーションに注意しましょう ・相手(プロフィール)を簡単に信用してはいけません ・個人的なことを安易に伝えてはいけません ❑ サイトの収益構造について理解しましょう ・「無料で楽しめる」理由を子どもに伝えることが大切です ・「夢中になる仕組み」への注意喚起も必要です  	インターネットの特性と原則を説明した後は、利用者がインターネットを利用する上で身を守るために特に気をつけるべきポイントを 3 つ説明していきます。 ・「プライバシー情報の書き込みを控えましょう」 スライド 30 や 34 で解説した通り、インターネットは匿名の世界でも、限られた範囲で公開されている世界でもありません。そのため、個人が特定できるプライバシー情報の書き込みには特に注意が必要です。子どもたちが自ら個人情報をさらしてしまう前に、先述の「4 つの誤解」を解いておきましょう。また、子どもたちに人気のコミュニケーションサイト（交流サイト）が会員限定サービスであることから、限られた世界であり安全だと過信することも多いようです。一定の制限のかかった場所であっても、インターネット上に情報を公開することには変わりがないことを改めて伝えておくようにしましょう。 ・「サイト上でのコミュニケーションに注意しましょう」 インターネット上でのコミュニケーションは、文字情報が中心で、顔が見えないやりとりがほとんどです。そのため、表情や声の抑揚による感情伝達が行われないため、大人同士でも誤解が生じやすくなります。コミュニケーション能力が未成熟な子どもたちはなおさらです。インターネットは、やりとりで誤解が生じやすいだけではなく、相手が信頼できる相手か見極めることも難しい世界です。その事を子どもたちにあらかじめ伝え、安易に相手のプロフィールを信用したり、個人情報を必要以上に伝えたりしないように指導していく必要があります。 ・「サイトの収益構造について理解しましょう」 インターネットサービスの中には、利用者を夢中にさせる仕組みが備わっていること、無料で楽しめるサービスがどのようにビジネスとして成り立っているのかあらかじめ子どもたちに説明しておきましょう。 利用者ができる安全対策は、まずはそのしくみを知ることから始まります。

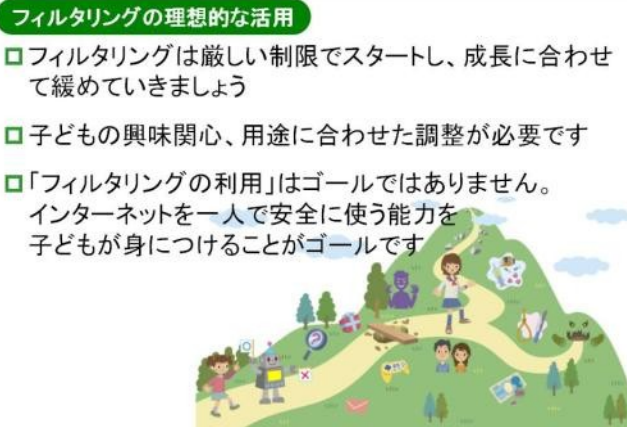
画面イメージ	教材のポイント
スライド. 37 4. 「インターネット」の4つの誤解とネット社会の3原則 子どもたちのインターネット利用について考える研究会 「無料」で楽しめる理由 □ 広告掲載による収入 ・ 会員数やアクセス総数の多さがカギ □ 利用者へのデジタルアイテム販売（課金） ・ ゲームを有利に進めるためのアイテム購入 ・ アバター（分身キャラクター）を飾る、「服」や「顔」や「髪型」のパーツ購入   ●無料で楽しめるしくみを解説していきます	スライド 21 で説明した通り、無料でゲームなどさまざまなコンテンツが楽しめるサイトがたくさんありますが、なぜ魅力的なコンテンツを無料で利用できるのか、サイト側の収益構造を知っておくことも重要です。 サイト運営側の収益源は、大きく分けて2点で、一つ目は広告掲載による収入です。たくさんの人が見るサイトほど、広告掲載スペースとしての価値が高まります。サイト運営者側は、魅力的なコンテンツを無料でユーザーに提供し、利用者数を増やすことで、自社の広告掲載スペースの価値を高め、広告収入を増やすことができます。 二つ目は、サービス利用者に対しての、デジタルアイテム（デジタルコンテンツ）販売です。ゲームをより楽しむために必要なアイテムやアバターを着飾するためのパーツを課金販売しています。一点一点は数十円から数百円の単位でも、数百万人以上の会員に向けて販売できることや、製造・流通・販売原価がきわめて小さいことで、大きな収益源になっています。 この2点による収入が見込めるため、少なくとも会員登録をさせる時点ではサービスを無料で提供できるのです。
スライド. 38 理想的なネットデビューとフィルタリング 子どもたちのインターネット利用について考える研究会  ●第五章では、子どもたちの理想的なインターネットデビューとフィルタリングの関係について解説します	ここまで見てきた子どもたちの利用やトラブル実態、サービスの構造やインターネットの特性を踏まえ、各家庭ではどのようなインターネットデビューを進めていくべきなのか、この章では「段階的利用」という考え方と、その実現のためのフィルタリングサービスを解説します。

画面イメージ	教材のポイント
スライド. 39 5. 理想的なネットデビューとフィルタリング 子どもたちのインターネット利用について考える研究会 きちんとした知識や技術を身につけないまま利用すると、未熟な自動車運転と同様、本人や周囲を巻き込む大きな事故につながる可能性がある  インターネットも子どもが身につけた（身につけさせた）能力にあわせて、段階的に利用させることが重要 インターネット利用の開始（解禁）を 自動車の運転講習に例えると…… ●インターネットの利用開始を自動車の運転講習ステップにたとえて解説をしていきます	便利な反面、不適切な利用（運転）をした場合に人命にも関わるような結果を招く可能性があり、それでも社会に浸透しているものとして、自動車を例示します。 インターネットも、便利で子どもたちの人生を豊かにする強い力を持つ反面、その特性の理解や最低限の技術を身につけないまま利用すると大きなトラブルに巻き込まれる可能性が高くなります。 被害者にも加害者にもならないために、必要な能力を段階的に身につけさせていく手法として、ここでは自動車運転免許の講習を例に解説していきます。
スライド. 40 5. 理想的なネットデビューとフィルタリング 子どもたちのインターネット利用について考える研究会 自動車講習  指導者が同席して利用 → 制限範囲内での利用 → 利用解禁 インターネット利用  きちんと技術や知識を習得していないと、被害者になるだけでなく、加害者として、周囲を巻き込む大きな事故につながる可能性があります ●インターネットデビューと運転講習のプロセスを対比させて解説します	自動車教習所では、いきなり生徒一人で、自動車の運転をさせたりはしません。学校内の敷地内で段階的に運転技術を身につけていくとともに、救命処置や法規、運転マナーについても平行して学習していきます。これらの能力を身につけたことが確認できた上で、次のステップへと進めます。インターネットの利用も同様です。はじめは保護者が傍について見守り、手助けしながら利用開始し、段階的に独り立ちさせていくことが理想的です。

画面イメージ	教材のポイント
スライド. 41 5. 理想的なネットデビューとフィルタリング 正しい使い方を身につけさせるため 「持たせる」 か 「持たせない」 ではなく 制限サービスを上手に活用し「使ってもよい機能」や「サイト」で区切りながら、段階的に利用させてインターネットを「使いこなす力」をつけさせることが大切 ●段階的に能力に合わせて利用させていく方が好ましいことを解説していきます。	パソコンや携帯電話によるインターネット利用がきっかけとなった事件が発生するたびに、「子どもたちに利用させる、させない。」「(携帯電話を) 持たせる、持たせない。」と、二択での両極端な議論が行われます。 しかし本教材の冒頭（第一章）で触れた通り、子どもたちの将来にはインターネット活用能力が欠かせません。かといって、何の制約、制限も付けず子どもに大人と同様のインターネット利用機器を持たせ、使わせることには無理があります。また、インターネットの利用能力は、加齢とともに自然に身につくものではなく、経験を積むことで、高まるものです。したがってトラブルを恐れるあまり、大人になり親元を離れるまで全く利用機器を持たせない、インターネットに接触させないことは、問題の先送りであり、有効ではありません。 ある期間は利用範囲を制限するサービスを活用したり、パソコン・携帯電話を与える時期、利用場所・時間などを子どもが身に付けた能力や発達に応じて調整したりすることで、使いこなす力を養いつつ、経験を積み、将来的にインターネットを活用することが可能となります。
スライド. 42 5. 理想的なネットデビューとフィルタリング フィルタリングの基本 ●フィルタリング機能の基本的なしくみを解説します	ここでは、子どもたちに段階的にインターネットを利用させていく際に欠かせない制限機能の一つ「フィルタリングサービス」のしくみを解説します。 フィルタリングサービスとは、子どもが（ユーザーが）インターネットを見ようとした際に、その内容を判定し閲覧をコントロールするサービスです。判定基準はサイトやサービスのジャンルごとに分類されていて、保護者が家庭の方針にあわせて制限ジャンルを選択します。 ただしフィルタリングサービスは、あくまでも保護者の代わりに、保護者が決めたルールに基づいて子どもを守るためのしくみです。 導入したから安心安全ではなく、個々の家庭の方針や、子どものインターネットの利用意図、発達段階に応じて制限範囲を調整することが大切です。

画面イメージ	教材のポイント
スライド. 43 5. 理想的なネットデビューとフィルタリング 制限できるジャンルの例 ●フィルタリングサービスで制限できる、代表的なジャンルを解説します	ここでは、フィルタリングサービスによる制限ジャンルの一例を紹介します。（制限可能なジャンルや名称、対象範囲はフィルタリングサービスによって異なります） ・「熱中、時間浪費の可能性があるサイト」 懸賞サイトやオンラインゲーム、動画共有サイトなどが含まれます。未熟で利用時間や利用範囲の自制ができない子どもたちをサービスへの依存から守る際に活用すべき制限ジャンルです。 ・「コミュニケーションサイト」 一般に広く利用されている交流サイトなど、オンライン上で他者と交流することができるサイト群が収録されています。オンラインでのコミュニケーションにまだ不慣れた年齢の子どもたち向けに活用すべき制限ジャンルです。 ・「成人向けサイト」 いわゆる有害、違法なサイトではないけれど、特に低学齢の子どもには不向きなサイト群が収録されています。成人向け雑誌と同様にグラビア、子どもには真偽の判別が付きにくい超常現象やパロディ、極端な主義主張を行っているサイトが含まれます。 ・「不適切コンテンツ、サイト」 残虐画像や詐欺サイトなど大人でも不要な情報や、ポルノ画像、ギャンブル情報、出会い系サイト情報、違法薬物情報など、一般に子どもには不適切と考えられるサイトがこの制限ジャンルに収録されています。

画面イメージ	教材のポイント
スライド. 44 5. 理想的なネットデビューとフィルタリング 子どもたちのインターネット利用について考える研究会 フィルタリング利用方法 □ 制限方式による調整 - ウェブアクセス制限(サイト閲覧はすべて不可) - ホワイトリスト方式(推奨サイトのみ) - ブラックリスト方式(有害・不適切なサイトは不可)  ●フィルタリングの制限方式で、代表的なものを3つ解説します	フィルタリングで用いられている利用制限技術には、いくつかの方式があります。ここでは、代表的な方法を3つ紹介します。 - ウェブアクセス制限 インターネットへのアクセス自体をすべて制限します。携帯電話の利用は通話やメール利用を主とし、インターネット（サイト閲覧）機能を不要とする場合に有効です。この方式を選んだ上で、特定のサイトだけを閲覧可能にすることも出来ます。 - ホワイトリスト方式 この方式は、特定のサイト群をリスト化し、そのリストに掲載された情報へのアクセスのみを許可する制限方法です。インターネットのごく一部だけを利用させることになります。公的なページや子どもに有益なページをあらかじめホワイトリストとして準備されているケースがほとんどですが、さらに好みのサイトを追加するなど、保護者がそのリストを調節（カスタマイズ）する機能も提供されています。 - ブラックリスト方式 見せたくないサイト群をリスト化し、そのリストに掲載されたサイト・ページのみ、閲覧を制限する方式です。ここまで紹介した制限方法の中では、一番弱い制限となります。実際には、スライド 43 で説明した通り、ブラックリスト中に複数のジャンルが定められており、特定のジャンルのみを制限するように選択することが可能です。特定のサイトやページを制限の対象として加える調節（カスタマイズ）も可能です。

画面イメージ	教材のポイント
スライド. 45 5. 理想的なネットデビューとフィルタリング 子どもたちのインターネット利用について考える研究会 フィルタリング利用方法 □ 用途や年齢、発達に応じた調節 - ジャンル別の規制解除や規制追加が可能 - 特定のサイトやその一部分の閲覧許可や、制限が可能 - 利用する家族別にレベルを変えた制限設定が可能  ●よりきめ細やかな制限調整を行うための、フィルタリング活用方法を解説します	ここまで、ジャンルや制限方式で利用範囲を制限する方法を紹介してきましたが、そもそもフィルタリングを使う際にまず考えなければいけないのは、「何のためにインターネットを利用する（させる）のか」、「利用する子どもにはどこまで使いこなす能力が身についているのか」の2点です。より実情にあった利用環境を準備するために、これらの機能を組み合わせて子ども個々に応じた調節を行っていきましょう。 例えばフィルタリングを利用する際に、幼いお子さんに合わせて制限すると、親兄弟の利便性が下がるケースもあります。フィルタリングサービスの中には、ユーザー別に制限設定を行う機能を持っているものもあります。家族の利用スタイルに合わせて活用していきましょう。
スライド. 46 5. 理想的なネットデビューとフィルタリング 子どもたちのインターネット利用について考える研究会 フィルタリングの理想的な活用 □ フィルタリングは厳しい制限でスタートし、成長に合わせて緩めていきましょう □ 子どもの興味関心、用途に合わせた調整が必要です □ 「フィルタリングの利用」はゴールではありません。インターネットを一人で安全に使う能力を子どもが身につけることがゴールです  ●フィルタリング活用に関するまとめです	フィルタリングサービスを利用する際は、最初は厳しい制限からスタートし、段階的に子どもの能力発達に応じて制限を緩めていくのが基本です。 「設定（契約）したから安心！ これで解決！」ではなく、子どもの興味関心や用途に合わせて個別調整（カスタマイズ）をしていきましょう。また、子どもがインターネットを使いこなせる能力を身につけさせていくことも重要です。 ※子どもネット研では、フィルタリング制限と利用させる機能やサービスを、子どもの能力に合わせて解除して行く「段階的利用モデル」を提唱しています。 より具体的な家庭での取り組みについて触れる場合は、「小中学生のお子さんを持つ保護者のためのインターネットセーフティガイド 後編」を組み合わせる構成することをおすすめします。 ▼「小中学生のお子さんを持つ保護者のためのインターネットセーフティガイド」 http://child-safenet.jp/material/index_01.html ▼「段階的利用モデル」について http://child-safenet.jp/material/guide01_model.html

画面イメージ	教材のポイント
スライド. 47 子どもたちのインターネット利用について考える研究会 保護者に期待される役割 ●この章では子どもたちのインターネット利用の問題について、保護者のみなさんに期待するアクションを解説します	ここまでの解説による状況の理解を基本として、実際に受講者に期待したい行動にも触れていきます。 ただし多くの保護者にとっては、自分たちの子どもの頃にはなかったことへの取り組みという、難しい課題にも感じられる内容です。 本章では、より多くの受講者がムリのない範囲で課題に取り組むことが可能なように、行動の原則となる考え方の解説や具体的なヒントを多く挙げています。
スライド. 48 子どもたちのインターネット利用について考える研究会 6. 保護者に期待される役割 保護者への期待と実態 期待 子どもの発達段階に合わせた利用環境整備 日常の見守りと指導 実態 苦手意識 サービスの変化が激しく理解が難しい 指導の仕方がわからない 問題や危険性に気づいていない ●期待される理想的な保護者の役割と、実際の保護者の状況を解説します	ここまで、子どもたちの利用実態や利用環境をどう整えていくべきかお話をしてきました。ここからは、実際に子どもたちを護り育てる保護者のみなさんに期待されるアクションや保護者だからできる事についてお話をしていきます。 先ほどお話したように、子どもたちの発達段階に合わせた利用環境を整備すること、日常的に子どもたちの利用に興味を持ち、あたたかく見守りながら指導していくことが理想です。 しかし、実際にはめまぐるしく変わるサービスの進化や、移っていく子どもたちの興味関心、流行をとらえ続け、理解することはなかなか難しく、特に携帯電話やインターネットなどがあまり得意ではない保護者の方にとって、子どもたちをどのように指導していくべきか悩む場面も多いかもしれません。また、上記のような理由から、子どもたちの利用の中にどんな問題が潜んでいて、どんな危険が迫っているのかなかなか気づけないケースもあるのではないのでしょうか。

画面イメージ	教材のポイント
スライド. 49 子どもたちのインターネット利用について考える研究会 6. 保護者に期待される役割 保護者に出来ること 子どもの能力発達を見極めましょう 一般的なモラルやコミュニケーション能力と、情報技術に関する知識やスキルをそれぞれ身につける必要があります 子どもの能力や発達はそれぞれ異なります。学齢などで区切るのではなく、日ごろの子どもの行動、身に付けた判断能力などで判断しましょう モラル・コミュニケーション能力 知識・スキル 「2つの能力」のどちらかが劣っていたり、欠けているとトラブルを起こすことになります ●保護者が育て、見極めていく必要がある子どもたちの2つの能力について解説しています	子どもたちがインターネットを利用する際に必要な能力は、大きく2つに分けて把握することが有益です。 一つは、保護者のみなさんが日ごろからお子さんに指導されている、一般的なモラルやコミュニケーションの能力です。こちらは、インターネットに限らず、社会生活に欠かせない内容です。 そしてもう一つは、最低限の情報技術に関する知識やスキルです。インターネット特有の約束事と言っても良いでしょう。 これら2つの能力は、どちらか一方だけが身についているだけではいけません。どちらの能力もバランスよく育てていかなければトラブルを起こす原因となってしまいます。 ※2つの能力をどのように見極めていくのか、具体的な例を「小中学生のお子さんを持つ保護者のためのインターネットセーフティガイド 後編」で紹介しています。 ▼「小中学生のお子さんを持つ保護者のためのインターネットセーフティガイド」 http://child-safenet.jp/material/index_01.html

画面イメージ	教材のポイント
スライド. 50 6. 保護者に期待される役割 保護者に出来ること 困ったときに相談できる相手となりましょう 小さなトラブルから学べるように、すぐに相談できる関係を維持することが大切です 親は「詳しくないから相談できない」と、子どもが一人で悩みを抱えこまないように、日頃からインターネットや携帯電話利用について親子で会話を心がけましょう  ●保護者に求められる、保護者にしかできない役割について解説します	インターネットを利用して、何らかのトラブルに遭遇したとき、誰にも相談できず悩みを一人抱え込む子どもは少なくありません。また友だちなどから結果的に誤ったアドバイスを受けてしまう可能性もあります。 子どもたちが困ったときに相談できる相手でいられるように、日ごろからインターネットや携帯電話の利用について、保護者が興味を持っていることを示すことが大切です。 子どもたちが利用していく中で、小さなトラブルは必ず発生します。小さなトラブルを教訓に、親子で学び、成長していくことができる関係作りも重要です。 ※子どもとどのように対話をしていくべきか、悩む保護者の方も多いと思います。子どもネット研ではYahoo!知恵袋と連携して、保護者のみなさんに子どもと携帯電話、インターネットに関する対話例や、家庭のルールなどの事例を募集しました。お子さんとの会話のヒントにご活用ください。 ▼子どもとネットに関する Q&A http://www.child-safenet.jp/qa/index.html

画面イメージ	教材のポイント
スライド. 51 6. 保護者に期待される役割 保護者に出来ること インターネット利用環境を整備しましょう 子どもの発達段階にふさわしい機器や利用場所、利用機能の選定を行いましょう 安全に利用できるように制限機能(ペアレンタルコントロールなど)や、制限サービス(フィルタリングなど)を活用しましょう  ●保護者にしかできない、利用環境の整備について解説します。	第五章でも解説した通り、フィルタリングサービスなどを活用し、子どもが安全に利用できる環境を整備するのも保護者の大切な役割です。どこで、どんな機器で、どんな事に利用するのか子どもと一緒に考え、その時点での子どもの能力に適した利用環境を整備していきましょう。 ゲーム機や音楽プレーヤーも同様です。ほとんどの機器が機能制限（ペアレンタルコントロール）やフィルタリング機能に対応しています。インターネット接続が必要か判断した上で適切な設定を行いましょう。 ▼参考資料 ゲーム機による制限機能の一例 - ニンテンドー3DS 「保護者による使用制限機能」 http://www.nintendo.co.jp/3ds/support/parental_control/ - ニンテンドーDS サポート情報 Q&A（ペアレンタルコントロールについて記載有） http://www.nintendo.co.jp/ds/support/qa/ - はじめての PSP（視聴年齢制限（ペアレンタルロック）について記載有） http://www.jp.playstation.com/psp/hajimete/ - PS VITA お子様の利用を制限する http://manuals.playstation.net/document/jp/psvita/basic/kids.html

画面イメージ	教材のポイント
スライド. 52 6. 保護者に期待される役割 こんな事に注意しましょう □ 利用状況を急に問いつめるのは止めましょう 親子での話し合いが充分に行われないまま、「上から目線」でのお説教、ゲーム機や携帯電話の「取り上げ」を行うことは逆効果です  ●講習受講後に保護者のみなさんに注意していただきたい点を解説します	本教材を用いた研修会などに参加された保護者のみなさんに必ずお願いすべきことがあります。自宅に戻って急にお子さんの利用状況を問い詰めたり、今日得た知識をもとに「上から目線」でお説教したり、機器の取り上げを行うことは止めてください。せっかくのお子さんとの対話のチャンスを失うだけでなく、今後の学習の機会を考えると逆効果です。まずは研修会に参加したこと、学んだ内容を、率直にお子さんに伝えるところから始めてみましょう。
スライド. 53 6. 保護者に期待される役割 こんな事に注意しましょう □ 放置したり、諦めないことが一番大切です - 買い与えてしまった後だからと諦めず、必要なルールや注意すべき点を子どもと一緒に考えていきましょう - リスクの低い利用になるよう、保護者として、子どもの気づきと能力向上を手助けしていきましょう - 子どもの方が詳しいから大丈夫だろう、うまくやるだろうと「何もしない」ことは危険です - 保護者の問題の「気づき」について、子どもに率直に伝える事を親子の対話のスタートにすることも有効です  ●講習受講後に保護者のみなさんに注意していただきたい点を解説します	段階的な利用解禁が理想であるとお話をする、「もう買い与えてしまった。聞くのが遅かった……」とおっしゃる保護者の方もいますが、決して諦めたり放置したりしないでください。必要なルールや利用していく上で気をつける必要がある点をお子さんと一緒に考えていきましょう。 子どもたちをすべての危険から完全に守ることは不可能です。しかし、出来るだけリスクの低い利用ができるように、保護者と子ども自身が問題点に気づき、またスキルアップの手助けしていかなければいけません。子どもの方が詳しいからきつとうまく対応するだろうと、保護者が「何もしない」ことはとても危険です。 まずは、これまでの知識不足を率直に認め、保護者自身の新たな「気づき」を子どもに伝えてみることを親子の対話のきっかけ、スタートにすることもとても有効です。

画面イメージ	教材のポイント
スライド. 54 6. 保護者に期待される役割 「家庭のルール」を決めましょう □ まずは、子ども自身に考えさせてみましょう - 保護者の懸念点を、事前に子どもに説明しましょう - 作成したルールが、保護者の懸念への対策となっているか親子で一緒に確認しましょう 我が家のルール ・利用時間..... ・利用場所..... ・利用目的..... ・月々の料金.....  ●家庭のルール策定時の注意点を解説します	携帯電話やインターネットの利用について家庭内でのルールを作成しましょう。 ただし、保護者が作成したルールを渡し、守らせるのではなく、あらかじめお子さんに親がどんな事を心配しているのか、どんな事を守ってほしいと思っているのか、どういう使い方をして欲しいと願っているのか伝えた上で、出来れば、お子さん自身にルールを考えてもらいましょう。 その後、作成したルールが親の懸念点を考慮したものになっているのか、もし、守れなかった場合はどうするのも含めて、お互いに納得できるまで話をしておきましょう。
スライド. 55 6. 保護者に期待される役割 「家庭のルール」を決めましょう □ 友人や同級生の保護者と情報交換しましょう メールや通話の利用時間帯については、片方の家庭だけで決めても守ることが難しいものです。子どもが日ごろよくやり取りする友人の保護者と連携して行きましょう  ●家庭のルール策定時の注意点を解説します	子どもと保護者の間だけでしっかりルールを決めても、子どもが普段メールをやりとりする友人や同級生の各家庭のルールと、大きな乖離があるとその効果も半減です。メールや通話の利用を許可する時間帯については、出来れば保護者間で一度情報交換し、特に夜間の携帯電話の利用については、適宜連携を取るようにしましょう。

画面イメージ	教材のポイント
スライド. 56 6. 保護者に期待される役割 「家庭のルール」を決めましょう □子どもの成長に合わせて変えていきましょう 子どもの能力向上や、必要となる機能に合わせてルールを変更する「基本方針」を、初めに子どもに説明しておきましょう  ●家庭のルール策定時の注意点を解説します	家庭のルールを決める場合は、お子さんの成長とともにルールも変えていく（能力が高まれば、制約は緩くなっていく）ことをあらかじめ伝えておきましょう。 今は使うことを許可しない機能でも、必要に応じて再考すること、その際には使いこなせるだけの知識・能力が身についているかをきちんと見定めることを、お互いに納得する事が、実効性のあるルールを作るポイントです。
スライド. 57 まとめ 	

画面イメージ	教材のポイント
スライド. 58 7. まとめ 知ることから始めましょう □子どもたちのインターネット利用状況や、機器の普及状況を知りましょう □学校で決められている「約束事」を確認しましょう □子どもたちの興味関心、利用実態を把握しましょう □子どもたちが使っている、サービスを見てみましょう □トラブルや失敗から学べる環境づくりが重要です保護者間の情報交換を心がけましょう  ●保護者の方に、まず始めて欲しいことを解説します	研修会などで勉強した保護者の方から、「注意すべき点や目指すべきことは理解できたが、まず何から取り組めばいいのかわからない。」という意見をときどき耳にします。 家庭環境、お子さんの発達状況などにより異なるため、「これだけやっておけばバッチリ！」と、というような正解は残念ながらありません。まずは、お子さんやその友人の利用状況と機器の所有状況、学校が調べ学習時などに守らせている約束事を確認した上で、今どんな事に興味を持って、どんなサービスをよく使っているのか、使ってみたいと思っているのか把握し、一度どんなサービスなのか保護者も実際にアクセスしてみましょう。 どれだけ保護者が気配り、見守りをしていてもさまざまな危険やトラブルから完全に遠ざけることはできません。事前の準備でトラブルを出来るだけ小さく留めることが大切です。また、その取り組みや失敗を保護者間で共有し、その事例から学んでいくことが重要性を最後に改めて確認しておきましょう。

画面イメージ	教材のポイント
スライド. 59 7. まとめ 保護者同士の助け合いも大切です 学校・学級や地域で連携したルールづくり、見守り きめ細かい実態把握やトラブル対応 押し付けにならない「学びあい」「伝えあい」 ママ友 警察 PTA 学校 市区町村 前内会 企業 都道府県 子育て支援センター 消費生活センター 子どもたちを護り育てる、さまざまな関係者による連携支援も始まっています ●地域全体で取り組むことで、よりきめ細やかに子どもたちを護り育てることが可能になる点について解説します	インターネットの問題は、各家庭のプライベートな領域と考えられることが多く、子どもたちのインターネット利用トラブル予防や活用能力向上に興味関心の高い保護者であっても、他の保護者に質問したり、アドバイスしたりすることはなかなか難しい面があります。 しかし、子どもたちはもちろんわれわれ大人にとっても、インターネットや携帯電話は生活する上で欠かせないインフラとなりつつあります。単なる一家庭の問題と見るべきではなく、むしろ子どもたちが日ごろメールなどで交流する友だちがいる学校や地域全体の問題ととらえるべきものです。 例えば、利用時間に関するルールは、メールのやり取りの相手の家庭と足並みそろえて対応していくことによって、より徹底していくことができます。 一人で悩まず、近所の保護者同士、ママ友、PTA などでお互いに学び合い、伝えあうなど、緩やかに連携して取り組むことが重要です。 子どもにどう接するべきか、どう指導するべきか悩んでいる保護者を助けることが、結果的により多くの子どもたちをトラブルから守ることにつながります。
スライド. 60 7. まとめ 子どもだけではなく、保護者も学び、変わる必要があります。保護者が正しい知識を持ち、適切に判断し対処することが最も重要です インターネット特有の問題は少なく、本質的には子育ての一環です ママ友 警察 PTA 学校 市区町村 前内会 企業 都道府県 子育て支援センター 消費生活センター	インターネットや携帯電話の問題に取り組む上で大切なのは、保護者が正しい知識を持ち、適切に判断対処していくことです。ただし、詳しい専門家並みの知識を持つ必要はありません。保護者同士で伝えあい、学びあい、助け合いながら、最初は「ほんの少し詳しい保護者」を目指していきましょう。 インターネットや携帯電話の利用に関する問題は、インターネット特有の問題は少なく、本質的には保護者の皆さんが日々お子さんに対して取り組んでいるしつけや教育と変わりません。インターネットは詳しくないからと構えることなく、子育ての一環として取り組んでいきましょう。

画面イメージ	教材のポイント
スライド. 61 子どもたちのインターネット利用について考える研究会 http://www.child-safenet.jp/ ママ友 警察 PTA 学校 市区町村 前内会 企業 都道府県 子育て支援センター 消費生活センター	